

# 兵庫県立播磨中央公園リノベーション計画

令和3年3月

兵庫県県土整備部公園緑地課

## 目 次

1. 兵庫県立都市公園リノベーション計画について .....	1
1-1. 本計画の背景と目的 .....	1
1-2. 本計画の対象 .....	1
2. 計画策定にあたっての基本的な考え方 .....	2
2-1. リノベーション計画の作成方法 .....	2
2-2. 県立都市公園の成り立ち .....	3
2-3. 基本計画の点検とその対応 .....	5
2-4. 県立都市公園をとりまく社会情勢等の変化への対応（SDGsを意識した取組みの推進） .....	7
3. 播磨中央公園の概要 .....	12
4. 播磨中央公園リノベーション計画 .....	14
4-1 播磨中央公園の成り立ち .....	14
4-2 リノベーションテーマ .....	15
4-3 リノベーション方針 .....	15
4-4 対策内容 .....	18
4-5 スケジュール .....	34

※P1～P11 は兵庫県立明石公園リノベーション計画と同じ記載のため省略

### 3. 播磨中央公園の概要

- 公園種別 広域公園
- 計画面積 381.6ha
- 開園面積 181.7ha

#### (1) 概要

播磨中央公園は、国の都市公園等整備五箇年計画の制定を受け、播磨地域北部の広域レクリエーション需要を担い、中国自動車道沿線の秩序ある開発を促すため、滝野町（現加東市）の五峰山山麓の丘陵地に開設した。

当時東洋一といわれた野外ステージ、各種運動施設、さいくるらんど、ばら園、桜の園、様々な遊具からなる子供の森など、多種多様な施設をもつ広域公園である。

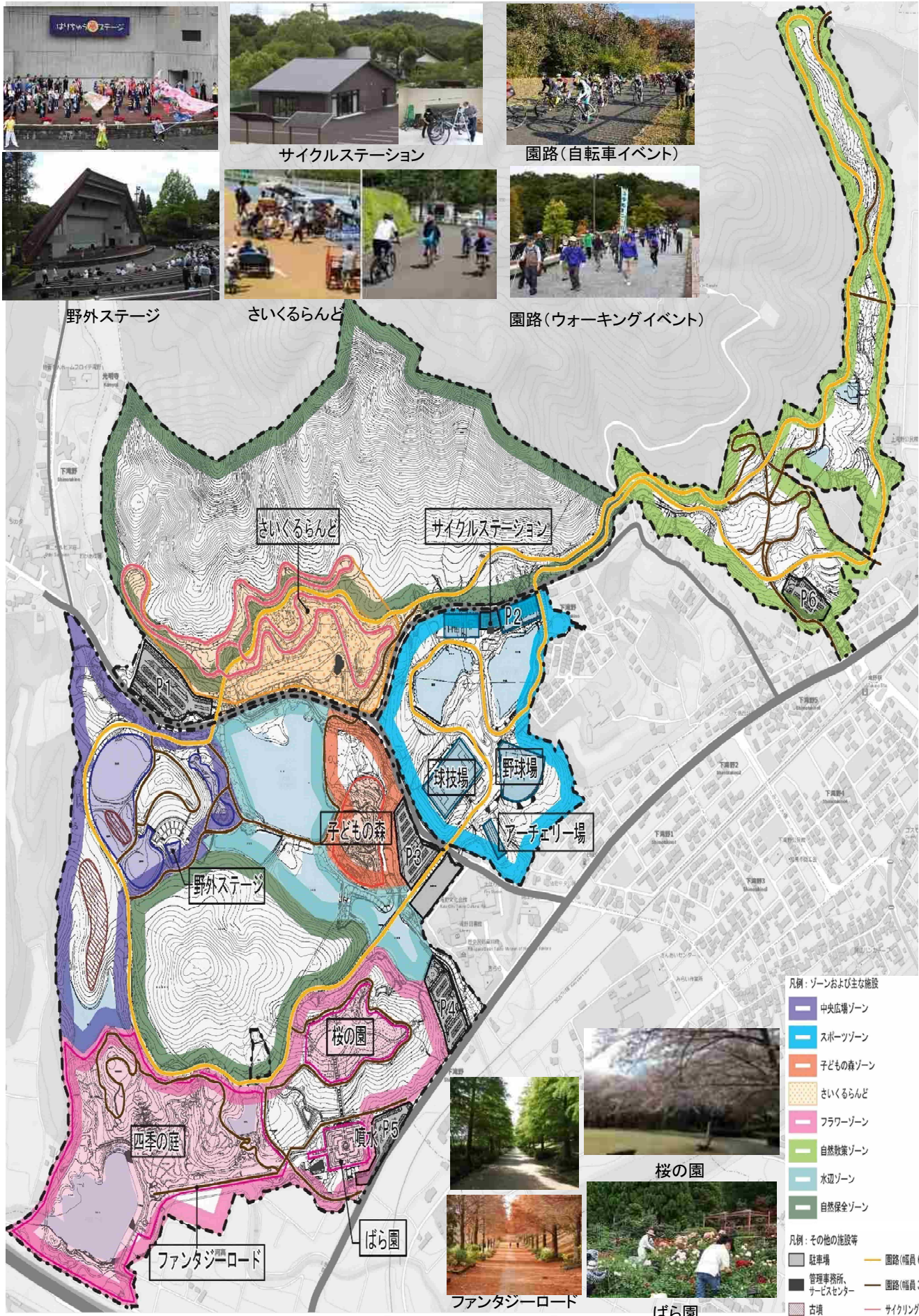


公園名	播磨中央公園（はりまちゅうおうこうえん）
開設年月日	昭和53年（1978年）8月5日
面積	計画面積：381.6ha、開園面積：181.7ha
種別	広域公園
主な施設	野外ステージ、桜の園、ばら園、四季の庭、芝生広場、子どもの小川、子どもの森、野球場、球技場、アーチェリー場、サイクルステーション、さいくるらんど

#### (2) 来園者数

過去20年程度の来園者数は、概ね400千人程度で推移している。令和元年（2019年）は、460千人となっており、近年では最大の来園者でとなっている。なお、昭和58年（1983年）に整備された「さいくるらんど」は、おもしろ自転車やサイクリング、インラインスケートを楽しむことができる場所であり、年間10万人前後（年間来園者約の1/4～1/5）の利用がある。





野外ステージ

さいくるらんど

園路(ウォーキングイベント)

さいくるらんど

サイクルステーション

球技場

野球場

子どもの森

アーチェリー場

野外ステージ

桜の園

四季の庭

ばら園

ファンタジーロード



桜の園



ばら園

【図 施設配置図】

- 凡例：ゾーンおよび主な施設
- 中央広場ゾーン
  - スポーツゾーン
  - 子どもの森ゾーン
  - さいくるらんど
  - フラワーゾーン
  - 自然散策ゾーン
  - 水辺ゾーン
  - 自然安全ゾーン
- 凡例：その他の施設等
- 駐車場
  - 管理事務所、サービスセンター
  - 古墳
  - 園路(幅員 6m)
  - 園路(幅員 3m)
  - サイクリング専用コース

# 4. 播磨中央公園リノベーション計画

## 4-1 播磨中央公園の成り立ち

公園名	時期													これから	SDGs 達成を目指した取り組み			
	S20 S30 S40 S45 S50 S55	S60	H2	H7	H8	H13	H18	H23	H28	R2	R3							
取組み概要	北播磨地域のスポーツ・レクリエーション需要の増大			運動施設等の改修、更新を中心とした施設管理			住民の参画と協働への取組み ○地域が主体となったイベント開催 (はりちゅうの日、あるこうかい) ○地域が主体となった公園管理 (ばら園、ドウダンツツジ、ファンタジーロード、花壇見守り)			兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画			播磨中央公園リノベーション計画		自転車を活用した魅力向上	施設の長寿命化	地域の健康づくりの拠点	参画と協働
整備	<p>S53: 野外ステージ<sup>※1</sup>・芝生広場・スポーツ施設 ※1 此れ落し公演として「アリス」のコンサートを開催(3万人が来場)。</p> <p>S58: さいくるらんど<sup>※2</sup>・子どもの森 ※2 家族で楽しめる「おもしろ自転車」等が人気であり、年間10万人前後の利用がある。</p> <p>S62: さくらの園<sup>※3</sup>・自然樹林地 ※3 地域の花見の名所「千本桜」として4万人が利用。H29年度から樹勢回復事業を実施中。</p> <p>S63: ばら園<sup>※4</sup> ※4 有料施設、45種約2,500株のばら園として開園。(H23年度より無料化に伴い規模縮小)</p> <p>H2: 修景池・駐車場</p> <p>H10: 四季の庭・自然樹林地</p> <p>H17: 自然散策ゾーン(園路、展望台)整備</p>			<p>R2: サイクルステーションの整備、社会実験の実施</p>			<p>〈自転車を活用した魅力向上〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「はりちゅうローラースポーツパーク(仮称)」の整備・野外ステージ撤去後の跡地利用</li> </ul> <p>〈施設の長寿命化〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>花みどり、遊具等既存ストックの魅力向上</li> </ul> <p>〈地域の健康づくりの拠点⇒園路改良〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園路の充実により、ウォーキングやランニング、サイクリングなど多様な健康づくりに対応</li> <li>歩車分離によって歩行者の安全が確保できた区間でサイクリングコース設定</li> <li>日陰、舗装改良(ウッドチップ等)、休憩所、コース案内</li> <li>トレイルランニングコースの整備</li> </ul> <p>〈はりちゅうローラースポーツパーク(仮称)の運営〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>競技団体や元選手などの協力・参画を得て、利用者のレベルアップに応えられるスタッフ体制を整える。</li> </ul> <p>〈回遊性の向上と地域間交流の推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園内、内外の回遊性を高め、地域間交流につながる仕組みをつくる。</li> <li>【例1】AR等デジタルツールを利用した案内機能の充実</li> <li>【例2】サイクルステーションを核とし、スタンプラリーによる周辺の観光やグルメスポットへの回遊(双方向)</li> </ul> <p>〈多世代交流の推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>従来の施設利用者像の枠(ばら園:中高年中心、さいくるらんど:ヤングファミリー中心)を超えた世代の利用を図り、一つの施設の中で多世代の交流を推進する。</li> <li>【例1】ばら園に新たに整備するチルドレンズガーデンでの中高年世代とヤングファミリーとの交流</li> </ul> <p>〈社会情勢等への変化への対応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポストコロナ社会に向けた公園の活用の推進</li> <li>グリーンインフラとしての機能強化の推進</li> <li>公民連携による新たな公園の魅力創出の推進</li> <li>Society5.0の取り組みの推進</li> <li>ユニバーサルデザインの推進</li> </ul>											
管理・運営(参画と協働)	<p>管理・運営(参画と協働)</p> <p>イベントの企画及び運営</p> <p>② 播中あるこうかい(24人) 「播中あるこうかい」 ・年2回開催のウォーキングイベント ・公園を中心に周辺の観光スポットを巡る ・定員250人に対し、毎回1,000人程度の応募 【ウォーキング】: 毎回新たなコースで実施 【ふるまい】: 地域住民との連携による地元名物(播州ラーメン)のふるまい 【ゲーム】: ビンゴゲームを通じて周辺の公共施設の入場割引チケットを配布</p> <p>⑤ はりちゅうの日実行委員会(17人) 「はりちゅうの日」 ・来園者約1万人/日を誇る一大イベント 【夢ステージ】: 子どもから大人まで、ダンスやよさこい、太鼓を披露。参加者は阪神間から播磨地域の広域に渡る。 【フリーマーケット】: 雑貨、衣類、手づくり品などを販売。 【うまいもん市】: 北播磨地域の野菜や加工品を販売。</p> <p>花みどりの維持管理</p> <p>① 楽しめる公園をめざす会(11人) 「園内景観の向上(ヌタバ池周辺)」 ・ドウダンツツジの育成管理。(活動回数70回/年以上)</p> <p>③ バラの花殻摘みの会(22人) 「バラの育成管理の補助」 ・春・秋にバラ花殻摘み ・剪定技術の習得(現在講習会に参加中)</p> <p>④ ハチドリ会の会(24人) 「四季の庭ファンタジーロードの修景」 ・脇花壇の花苗の確保 ・花苗の植栽・日常管理</p> <p>⑥ 花壇見守り会(22人) 「花壇の手入れ(皇太子御成婚記念広場等3か所)」 ・花苗の植栽、日常管理</p> <p>H15 播磨中央公園管理運営協議会設立</p> <p>H16 「はりちゅう夢企画」会議※</p> <p>① H18 楽しめる公園をめざす会</p> <p>② H21 播中あるこうかい</p> <p>③ H23 バラの花殻摘みの会</p> <p>④ H24: ハチドリ会の会設立(花のボランティア)</p> <p>⑤ H25 はりちゅうの日実行委員会</p> <p>⑥ R2 花壇見守り会</p> <p>※「はりちゅう夢企画」会議 ・播磨中央公園管理運営協議会の下部組織で協議会での提案を実際に企画実施する部会。 ・座長を置かず、全員が平等で自由闊達な意見交換を行う。 ・公園利用者や地域の方々が「公園で夢を実現できるような市民活動」を支援するための仕組みなどについて考える。 ・ばら園無料化に際し、はりちゅう夢企画が適正規模を提案した。</p>																	

## 4-2 リノベーションテーマ

播磨中央公園のリノベーションテーマおよびキーワードを以下の通り設定する。

リノベーションテーマ：サイクルスポーツや自然を活かしたレクリエーション等による健康づくり支援と地域振興

キーワード

サイクルスポーツ

長寿命化

健康づくり

## 4-3 リノベーション方針

公園の成り立ちや各施設の利用状況や競合施設の状況等から総合的に判断し、「機能の更新」、「新規施設導入」または「機能の維持・保全」を行うリノベーション方針を示す。

対応については、今後、管理運営協議会等で詳細を議論することとする。

なお、実施に当たっては、財政状況・施設の運営状況・社会情勢（ポストコロナ・SDGs等）を考慮し、県民全体のサービス向上に資するように努める。

### (1) 現状と課題及び方針

■：新規施設導入 ■：機能の更新 ■：機能の維持・保全

キーワード	施設名	利用状況			課題	対応（○ハード、■ソフト）
		現状	利用者数	利用者像		
ローラーパーク	野外ステージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●築後42年の老朽化</li> <li>●利用頻度が低い</li> <li>●「はりちゅうの日」は、地域住民等の貴重な交流の場や機会となっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成22年度(ピーク時)26,550人/年(6回利用)</li> <li>●令和元年度11,706人/年(「はりちゅうの日」だけで約1万人/日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●はりちゅうの日出演者とその家族</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●築後42年経過し、老朽化が進行。</li> <li>●利用頻度が低い。(平成22年度(ピーク時)26,550人/年、令和元年度11,706人/)</li> <li>●利用頻度が低下(平成22年度(ピーク時)26,550人、令和元年度11,706人)</li> <li>●「はりちゅうの日」は来園者約1万人/日を誇る一大イベントであり、16年間運営に係わる地域住民から、ステージイベント開催機能確保の要望有。</li> </ul>	<p><b>新規施設導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○野外ステージ(S53建築)を撤去し、BMXやMTB、スケートボード、インラインスケートが楽しめる施設「はりちゅうローラーパーク(仮称)」を整備(ステージイベントの開催機能も確保する)。</li> <li>■競技団体や元選手などの協力・参画を得て、利用者のレベルに応じた指導ができるスタッフを確保し、定期的な教室開催や大会誘致を行う運営体制の確保。</li> </ul>
	さいくわらんど (サイクル広場) サイクリングコース (約3km)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●土日祝日中心</li> <li>●おもしろ自転車やサイクリング車を楽しむ</li> <li>●インラインスケートを楽しむ</li> <li>●サイクリングを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●年間10万人前後</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子育て家族(幼稚園～小学生低学年まで)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●サイクリングコースはL=3kmあるが、さいくわらんど内限定。</li> <li>●クラックが多数発生するなど、アスファルト舗装が老朽化。</li> </ul>	<p><b>機能の更新</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○■自然散策ゾーン、サイクリングコースとの接続と一体運用</li> </ul>
健康づくり	園路	<ul style="list-style-type: none"> <li>●散策利用</li> <li>●マラソン利用</li> <li>●自転車競技利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「播中あるこう会」2回/年、170人/日</li> <li>●マラソンイベント6回/年、毎回100～2000人</li> <li>●自転車競技5回/年100～300人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●散策利用中高年(曜日にかかわらず毎日)</li> <li>●マラソン利用小中学生～50代</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●散策やジョギング等の利用について以下の課題が挙げられる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)幅員は広いが日陰が無い。</li> <li>2)アスファルト舗装は歩き易いが、足腰への負担が大きい。</li> <li>3)休憩施設(ベンチ、四阿)が無い。</li> <li>4)案内機能が不足(主要施設や駐車場等)</li> </ol> </li> <li>●多様なランニング需要(林地内等)に対応したコースが無い。</li> <li>●自転車乗り入れ禁止だが、サイクリングによる健康づくり希望者が増加している。</li> </ul>	<p><b>機能の更新</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日陰、舗装改良(ウッドチップ等)、休憩所、コース案内、健康遊具(ぶら下がり、足踏み、背筋伸ばし等)など歩く人に優しい園路の整備</li> <li>■自然散策ゾーンからさいくわらんどサイクリングコースまでの園路で歩車分離による歩行者の安全性が確保された区間についてサイクリングコースを設定</li> </ul> <p><b>新規施設導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○トレイルランニングコースなど走る人が楽しめる園路の整備(自然型のスポーツの場づくり)</li> </ul>
長寿命化	桜の園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●サクラの開花期間中、加東市、加東商工会、加東市観光協会と連携し、「はりちゅうさくらまつり」を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>43,150人(R1)</li> <li>35,200人(H30)</li> <li>24,690人(H29)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中高年中心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成29年時のサクラ総本数は829本と過密状態であった。このため、枝が交差して枯れ枝が生じることで腐朽の進行、病害虫の発生等により、枯れ木や枯損木が出現している。</li> <li>●下枝が育たず本来の樹形(傘型)が形成できなくなり、徐々に花の量も少なくなっている。</li> </ul>	<p><b>機能の維持保全</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成29年度から実施している樹勢回復事業の継続</li> </ul>
	ばら園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●春と秋のばらまつりは中高年中心多くの人で賑わう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>11,822人(R1)</li> <li>12,199人(H30)</li> <li>7,950人(H29)</li> <li>2,905人(R1)</li> <li>3,444人(H30)</li> <li>1,498人(H29)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中高年中心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中高年世代の愛好家に偏った利用。</li> <li>●春、秋の開花期以外の誘客。</li> <li>●サービスセンターは、展示内容の陳腐化や、現在の利用実態(ワークショップや講習会場、ボランティア活動家の準備、休憩コーナー)と乖離した間取り。</li> </ul>	<p><b>機能の更新</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○■チルトレンズ・ガーデンの整備・運営(淡路景観園芸学校との連携)</li> <li>○サービスセンターの改修</li> </ul>
	ファンタジーロード	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ラクショウの紅葉時期に賑わう</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中高年中心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ラクショウや周辺の林相が生長とともに鬱蒼とし、暗く圧迫感を与えている。</li> </ul>	<p><b>機能の維持保全</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○明るい並木道づくり</li> </ul>
	周辺樹林地	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>●当初整備後に植栽された樹木や実生木が生長し、暗く圧迫感がある。生きものの多様性が低い。</li> </ul>	<p><b>機能の維持保全</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○林相の整備</li> </ul>

キーワード	施設名	利用状況			課題	対応（○ハード、■ソフト）
		現状	利用者数	利用者像		
	子どもの森	●ローラー滑り台、ターザンロープなどが整備されている	—	●平日は近所の親子 ●休日は子育て家族(幼稚園～)	●時代とともに変化する安全基準への対応。 ●幼児・小学生低学年向けの遊具が無い。	<b>機能の更新</b> ○遊具の更新(ターザンロープ、ローラー滑り台などの更新、クライミングウォール、ツリーネットなど幼児・小学生低学年向け遊具の新規導入)
	スポーツ施設	●スポーツ施設の利用者数は安定した利用がある。	野球場 4,645 人(R1) 3,718 人(H30) 4,502 人(H29)	●野球場、球技場は神戸・明石方面から車で来園する社会人が中心 ●アーチェリー場は、市アーチェリー協会、神戸～姫路臨海部中高年が中心	●利用満足度を下げない日常管理。 ●「競技」目的の利用から「健康づくり」「遊び」など多様化への対応	<b>機能の維持保全</b> ■グラウンドの不陸整正、芝草の管理など適正な維持管理 ■現在、主な利用者層が「競技」を「する人、観る人」であるが、地域に住む人が誰でも気軽に「健康づくり」や、子どもの「遊びながらスポーツに親しめる」場など、活用の多様化の検討。
			球技場 2,971 人(R1) 3,980 人(H30) 4,168 人(H29)			
アーチェリー場 1,762 人(R1) 1,708 人(H30) 1,887 人(H29)						
その他	新時代に対応するインフラ	—	—	—	●コロナ禍におけるリモートワークやセルフレクリエーションなどへ対応するインフラが無い。 ●広大な敷地に様々な施設が整備されているが、案内機能が不十分。	<b>新規施設導入</b> ○テレワーク対応などに向けた Wi-fi 環境(フリー)の整備 ○AR(拡張現実)を活用した案内機能の充実
	宿泊や飲食施設	●「森のくまさんのおうち」(レストハウス)は H30.9 から閉店 ●現在宿泊施設無し	—	—	●既存レストハウスは老朽化が激しく、使用には多額の補修費が必要である(飲食・宿泊施設は国庫補助対象外)。 ●単一施設利用に止めず、施設間の回遊性を高め、滞在時間を延ばすための支援施設がない。	<b>新規施設導入</b> ○飲食・宿泊機能への民間活力導入
	トイレ	—	—	—	●清掃方式が湿式のため、衛生環境の向上が必要。 ●和式トイレが主体のため、馴染みのない子ども達やお年寄り、足腰の不自由な人達が使づらい。 ●照明設備が旧式の蛍光灯のため、照度が低く薄暗い。	<b>機能の更新</b> ○洋式化、照明器具 LED 化、清掃方式の乾式化などトイレの改修。

## (2) 公園をとりまく社会情勢の変化への対応

コロナ後等の社会情勢を見据え、施設の新たな活用を検討するとともに、SDGs 達成を目指した取り組みを推進する。

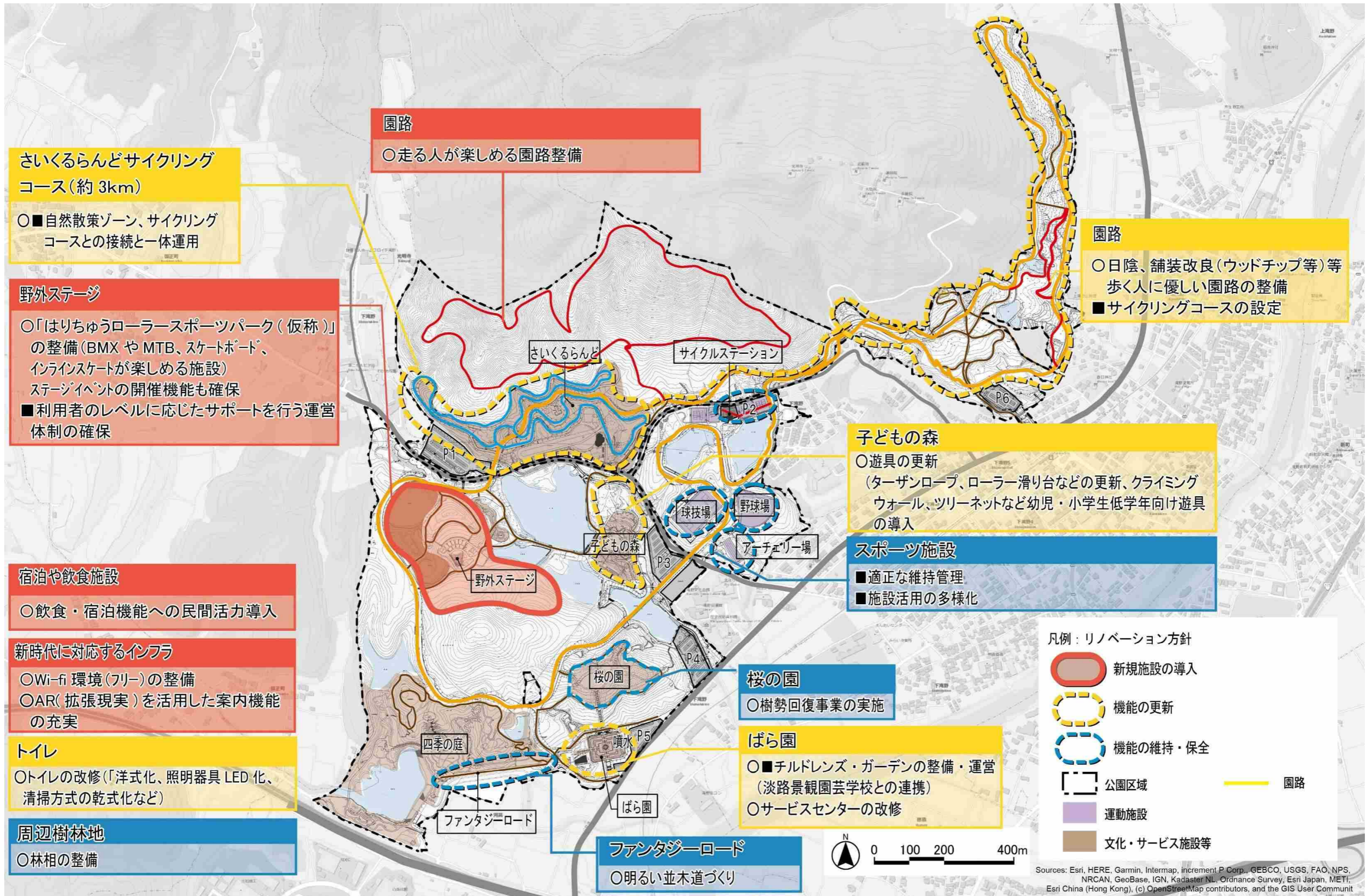
### (ポストコロナ)

- 「3密」回避できるデジタルツールの活用やセルフレクリエーションの推進
  - ・様々なウォーキングコースを選んで歩きながら公園及び地域資源を発見できるしかけとして QR コード、AR の導入。
- ワーケーション、テレワークの場として公園を活用
  - ・Wi-Fi 環境の整備

### (グリーンインフラ)

- 施設の修繕・新規整備の際は、透水性舗装化等の貯留・浸透機能を有効に活用

(2) リノベーション方針図





## 4-4 対策内容

計画の対象ごとに、課題、実施主体、概要を示し、これに基づいてリノベーションを実施する。

### ① 野外ステージ

#### <課題>

- 築後 42 年経過（S53 年建築）し、老朽化が進行している。

ステージ床面の劣化



金属屋根の劣化



- 利用頻度が低化している。（平成 22 年度（ピーク時）26,550 人、令和元年度 11,706 人）

	主な利用		
	1	2	3
R1 (11,706 人)	はりちゅうの日 (約 10,000 人)	新緑・子どものまつり (約 700 人)	播中あるこう会 (約 150 人)
H25 (19,657 人)	コンサート 〔トータス松本約 7,000 人 MISA 約 6,000 人〕	はりちゅうの日 (約 6,500 人)	新緑・子どものまつり (約 550 人)

※H26 以降、著名芸能人のコンサート開催なし

- 「はりちゅうの日」などの地域イベント開催時のステージ機能を確保。

#### <実施主体>

ハ：ハードに関する対策

ソ：ソフトに関する対策

		実施主体				
		県	指	市町	民間	住民
ハ はりちゅうローラースポーツパーク(仮称)の整備	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					
ソ 利用者のレベルに応じたサポートを行う運営体制の確保	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					

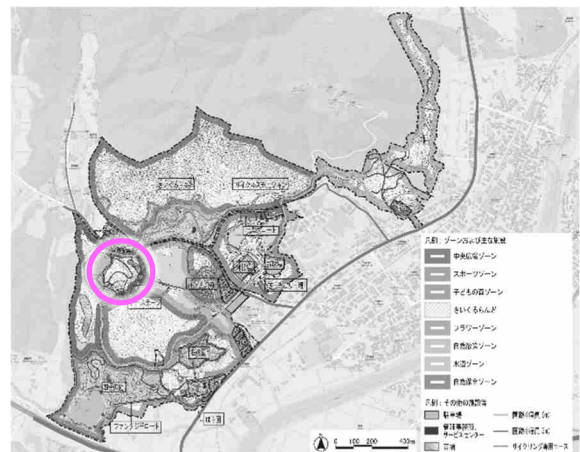
#### <概要>

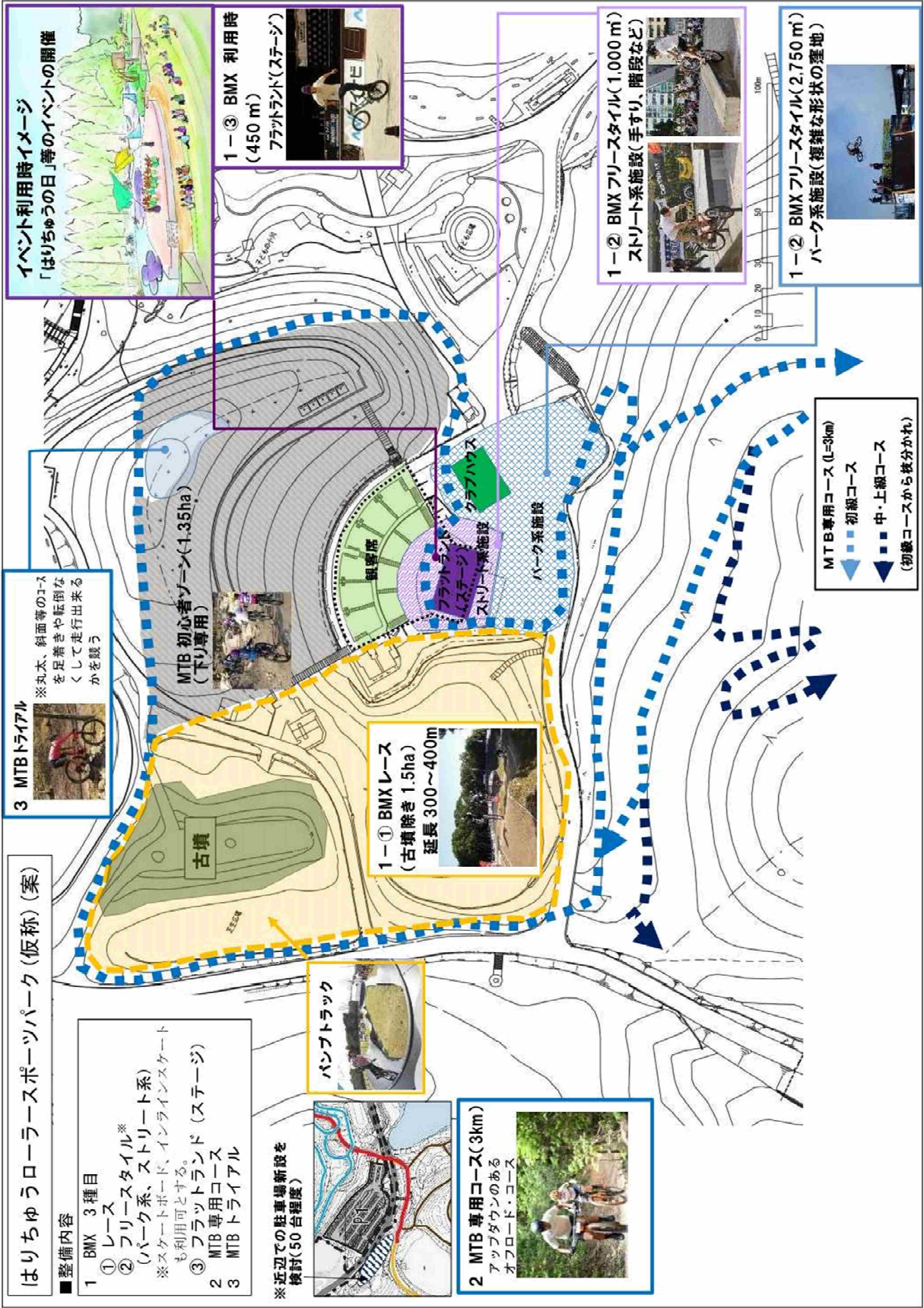
##### ■ はりちゅうローラースポーツパーク(仮称)の整備

野外ステージを撤去し、BMX や MTB、スケートボード、インラインスケートが楽しめる施設「はりちゅうローラースポーツパーク(仮称)」を整備する。その際、ステージイベントの開催機能も確保する。

##### ■ 利用者のレベルに応じたサポートを行う運営体制の確保

競技団体や元選手などの協力・参画を得て、利用者のレベルに応じた指導ができるスタッフを確保し、定期的な教室開催や大会誘致を行う。





はりちゆうろーらすすぽーつぱーく (仮称) (案)

- 整備内容
- 1 BMX 3種目
    - ① レース
    - ② フリースタイル※ (パーク系、ストリート系) ※スケートボード、インラインスケートも利用可とする。
    - ③ フラットランド (ステージ)
  - 2 MTB 専用コース
  - 3 MTB トライアル

※近辺での駐車場新設を検討(50台程度)



※丸太、斜面等のコースを互着きや転倒なくして走行出来るかを競う



- MTB 専用コース (L=3km)
- 初級コース
  - 中・上級コース (初級コースから抜かれ)

## ②園路

### <課題>

- 散策やジョギング等の利用について以下の課題が挙げられる。
  - 1) 幅員は広いが日陰が無い。
  - 2) アスファルト舗装は歩き易いが、足腰への負担が大きい。
  - 3) 休憩施設(ベンチ、四阿)が無い。
  - 4) 案内機能が不足(主要施設や駐車場等)
- 多様なランニング需要(林地内等)に対応したコースが無い。
- 自転車乗り入れ禁止だが、サイクリングによる健康づくり希望者が増加している。

### <実施主体>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

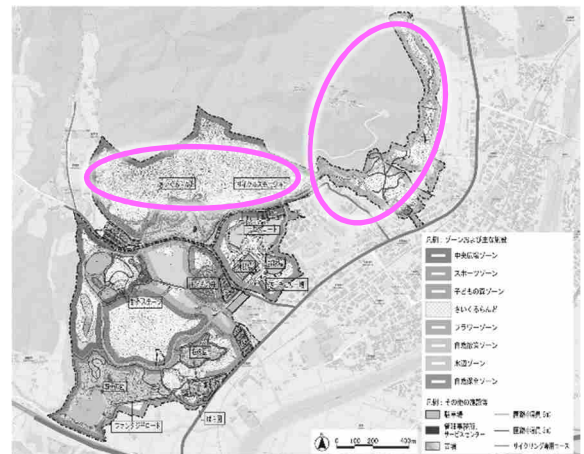
		県	指	市町	民間	住民
ハ	歩く人に優しい園路整備	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				
ソ	サイクリングコースの設定	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				
ハ	走る人が楽しめる園路整備	主体となって進める機関				
		協力・連携して進める機関				

### <概要>

#### ■歩く人に優しい園路整備

主園路では、側方の植栽エリアに新たな歩行者用園路を整備する。ウッドチップ等のクッション性のある舗装、休憩所、健康遊具(ぶらさがり、足踏み、背筋伸ばし等)などにより、木陰の中を快適に利用できる歩行者空間を創出する。

林間園路も周辺樹木の間伐を行いながら、舗装改良するとともに、新たなルートを整備する。



#### ■サイクリングコースの設定(総延長約7.2km)

自然散策ゾーンからさいくるらんどサイクリングコースまでの園路で、歩車分離による歩行者の安全性が確保された区間を常時自転車の乗り入れが可能なサイクリングコースとして運用する。

#### ■走る人が楽しめる園路整備

地形を生かし、森の中のアップダウンや眺望が楽しめるトレイルランニングコース(約5km)をさいくるらんど北側の山林内に新設する。

# 園路改良 (案)

## ■ 整備内容

- 1 歩く人に優しい園路整備
  - ・ 日陰、舗装改良 (ウッドチップ等)、休憩所、コース案内、健康遊具 (ぶら下がり、足踏み、背筋伸ばし等) など
  - ・ ユニバーサルデザインに配慮 (車イス対応の勾配、視覚障がい者誘導ブロックなど)
- 2 走る人が楽しめる園路整備
  - ・ トレイルランニングコースの整備 (自然型のスポーツの場づくり)

## ■ サイクリングコースの設定 (総延長 7.2km)

- ① 林間園路の整備や歩車分離によって歩行者の安全が確保できた区間については、自転車の走行を可能とするサイクリングコース (L=3km) を設定
- ② 「さいくぐるらんど」サイクリングコースとの連絡区間 (L=0.6km 往復) も同様の歩車分離 (対面通行) を行う
- ③ 「さいくぐるらんど」サイクリングコース (L=3km) の補修と主園路との接続を行う

## 2 走る人が楽しめる園路整備 ・トレイルランニングコースの整備



# 1 歩く人に優しい園路整備 ⇒ サイクリングコースの設定

## ■ 主園路 (L=3km) 歩車分離による歩行者の安全確保 ⇒ 自転車常時走行可

**現状**  
既存園路 幅 6.7m  
歩行者通路 幅 4m  
幅 4m 程度

**改善計画**  
自転車通路 幅 6.7m  
歩行者通路 幅 4m 程度

**休憩エリア**  
幅 3m

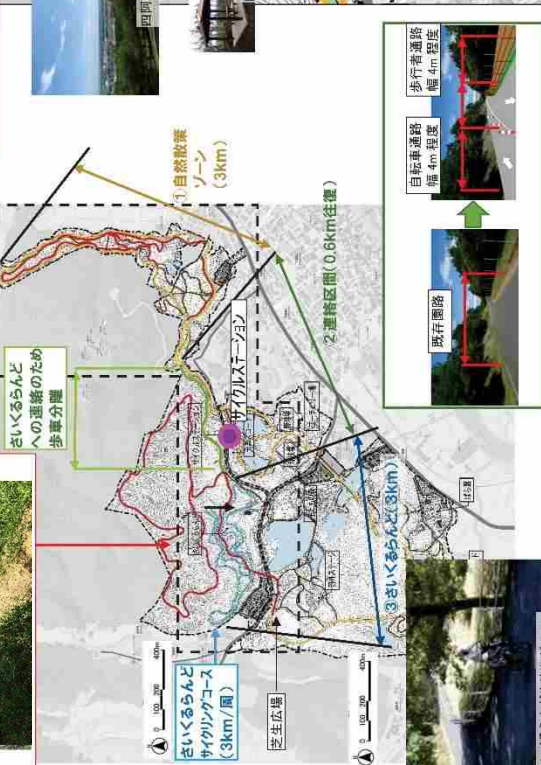
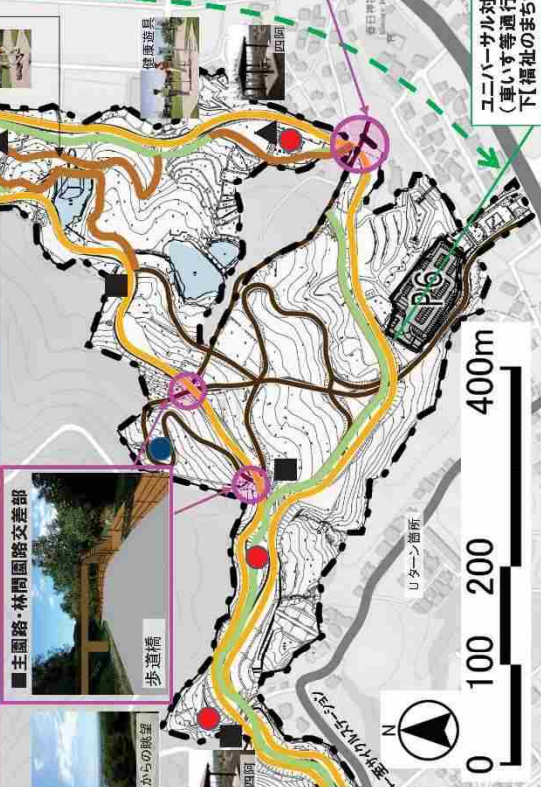
**改善計画**  
自転車通路 幅 6.7m  
歩行者通路 幅 4m  
幅 3m

**路肩** 幅 1.5m  
**自転車通路** 幅 6.7m  
**歩行者通路** 幅 4m



**凡例**

● (赤)	休憩所 (新設)
● (青)	〃 (既存)
■ (黒)	コース案内
▲ (黒)	健康遊具
— (黄)	既設主園路 (自転車)
— (緑)	改良主園路 (歩行者)
— (黒)	林間園路 (既存)
— (茶)	林間園路 (新設)



ユニバーサル対応区間  
(高い等通行可能な勾配 4%以下  
下(福祉のまちづくり条例)で整備)

### ③桜の園

#### <課題>

- 平成 29 年時のサクラ総本数は 829 本と過密状態であった。このため、枝が交差して枯れ枝が生じることで腐朽の進行、病虫害の発生等により、枯れ木や枯損木が出現している。
- 下枝が育たず本来の樹形（傘型）が形成できなくなり、徐々に花の量も少なくなっている。

#### <実施主体>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

	県	指	市町	民間	住民
ハ 樹勢回復事業の実施					
主体となって進める機関					
協力・連携して進める機関					

#### <概要>

##### ■樹勢回復事業の目的

過密状態を解消し、本来の樹形に近づけるため、間伐や剪定などを行い活性化する。

桜の園を A から E まで 5 つのエリアに分けた上でモニタリング調査を行い、対応方針を決定した。

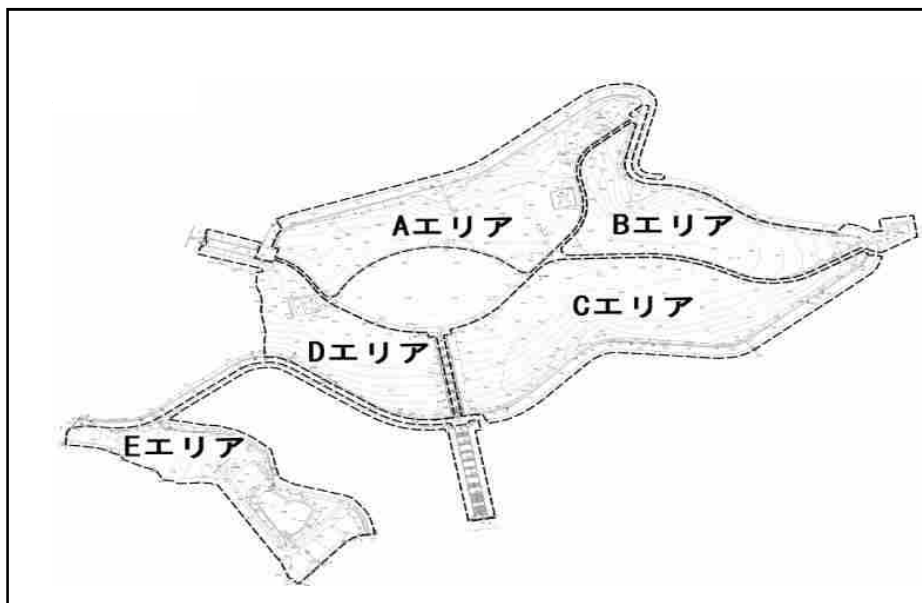
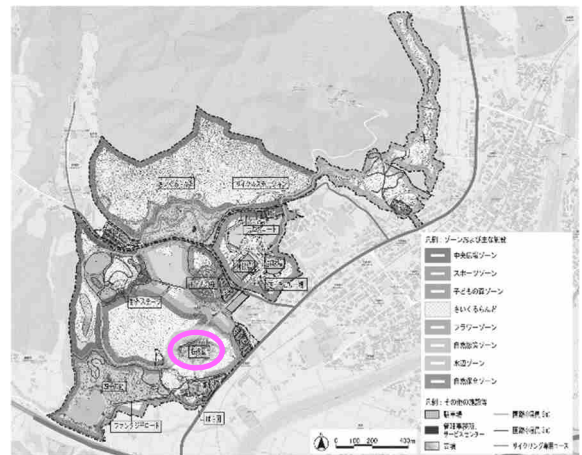


図 エリア位置図

## ■具体的な内容

○平成 29 年度：5 カ年の維持管理計画を策定するとともに、緊急性の高い危険木 65 本を伐採した。

表 エリアごとの緊急伐採の木本数

Aエリア	Bエリア	Cエリア	Dエリア	Eエリア	計
17本	8本	16本	6本	18本	65本

○平成 30 年度以降：各年度 1 エリアを対象とし、モニタリングの結果をもとに伐採、剪定などの維持管理を実施中である。

表 エリアごとの維持管理概要

主な維持管理内容	平成30年度	令和年度	令和2年度	令和3年度 (予定)	令和4年度 (予定)	合計
	Aエリア	Bエリア	Cエリア	Dエリア	Eエリア	
伐採	4本	63本	102本	31本	60本	260本
剪定	37本	34本	—	—	—	71本



枝剪定



密植箇所の除伐



腐朽防止

## ④ばら園

### <課題>

- 中高年世代の愛好家に偏った利用である。
- 春、秋の開花期以外の誘客が求められる。
- サービスセンターは、展示内容の陳腐化や、現在の利用実態（ワークショップや講習会場、ボランティア活動家の準備、休憩コーナー）と乖離した間取りとなっている。

### <実施主体>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ハ ソ	チルドレンズ・ガーデンの整備・運営					
ハ	サービスセンターの改修					

### <概要>

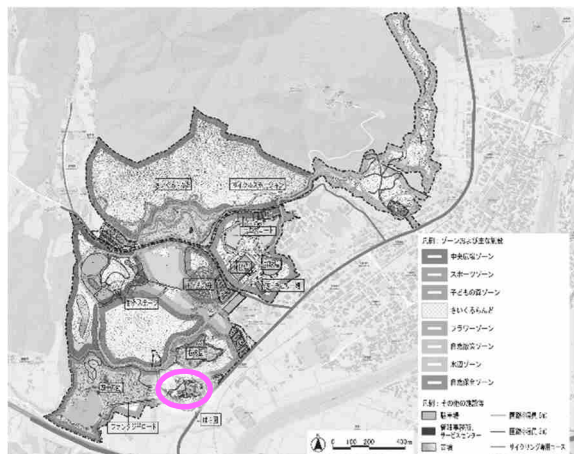
#### ■チルドレンズ・ガーデンの整備・運営

オークなどの遊びに使われる植物、ラズベリーなどの食体験に使われる植物、虫を誘引する植物（虫取りをして楽しむ）などを使い、遊びながら自然を体験する花壇を整備し、さいくるらんどや子どもの森に訪れる親子連れを引き込み、多世代交流を図る。

県立淡路景観・園芸学校の協力を得ながら設計や運営を行う。

#### ■サービスセンターの改修

多世代が交流してワークショップを楽しめるスペースや、ボランティア活動家の拠点となるスペースに改修する。



チルドレンズ・ガーデンイメージ  
【写真提供：兵庫県立大学大学院  
嶽山准教授（分科会長）より】



サービスセンター



ワークショップ

## ⑤ファンタジーロード

### <課題>

- ラクウショウや周辺の林相が生長とともに鬱蒼とし、暗く圧迫感を与え出している。

### <実施主体>

**ハ** : ハードに関する対策    **ソ** : ソフトに関する対策

<b>ハ</b> 明るい並木道づくり	県	指	市町	民間	住民
	主体となって進める機関				
	協力・連携して進める機関				

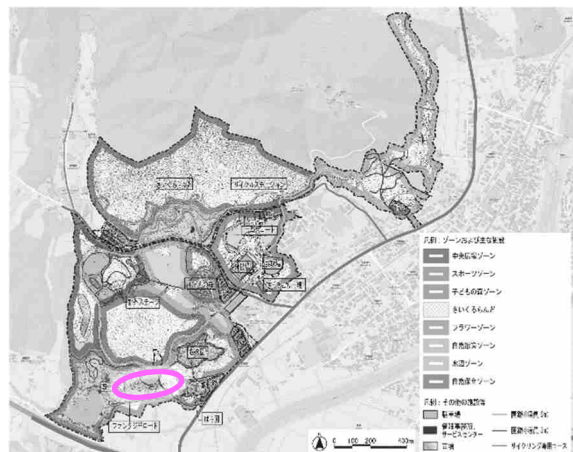
### <概要>

#### ■明るい並木道づくり

ラクウショウの本来の樹形を活かした並木道となるように剪定したり、周辺の常緑樹の伐採を行う。



ファンタジーロード



## ⑥周辺樹林地

### <課題>

- 当初整備後に植栽された樹木や実生木が生長し、暗く圧迫感がある。生きものの多様性が低い。

### <実施主体>

**ハ** : ハードに関する対策    **ソ** : ソフトに関する対策

<b>ハ</b> 林相の整備	県	指	市町	民間	住民
	主体となって進める機関				
	協力・連携して進める機関				

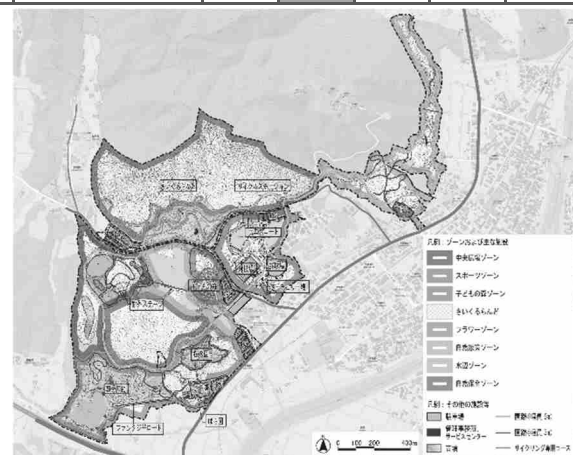
### <概要>

#### ■林相の整備

明るく利用し易い森を目指し、常緑樹を集中的に伐採する。



周辺林地





⑦子どもの森

<課題>

- 時代とともに変化する安全基準への対応。
- 幼児・小学生低学年向けの遊具が無い。

<実施主体>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

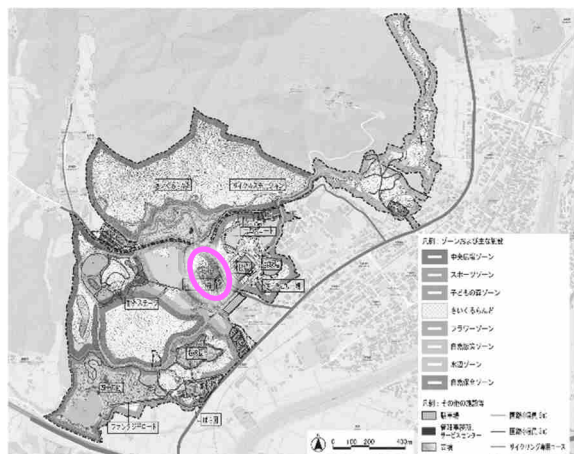
ハ 遊具の更新	主体となって進める機関	県	指	市町	民間	住民
	協力・連携して進める機関					

<概要>

■遊具の更新

新たな安全基準\*に照らしながら、人気があるターザンロープ、ローラー滑り台などは同じ機能の製品で更新する。

幼児や小学生低学年向けとしてツリーネットやクライミングウォールなどを新しく導入する。



※ 2002年「都市公園における遊具の安全確保に関する指針/国土交通省」  
2002年「遊具の安全に関する規準/(社)日本公園施設業協会」



ローラー滑り台



クライミングウォール

## ⑧スポーツ施設

### <課題>

- 利用満足度を下げない日常管理。
- 「競技」目的の利用から「健康づくり」「遊び」などへの多様化の検討。

### <実施主体>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ソ	適正な維持管理					
ソ	施設活用の多様化の検討					

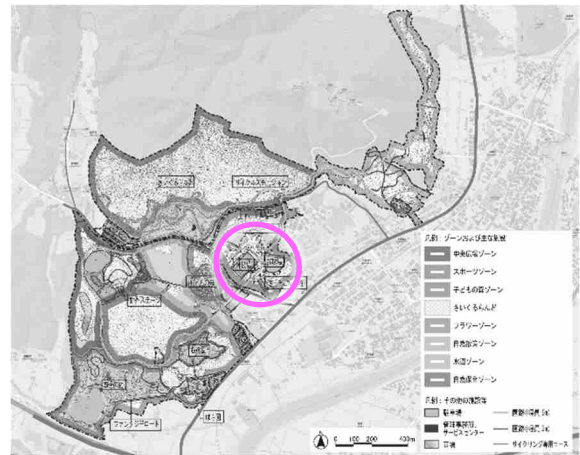
### <概要>

#### ■適正な維持管理

グラウンドの不陸整正、芝草の管理など適正な維持管理を行う。

#### ■施設活用の多様化の検討

現在、主な利用者層が「競技」を「する人、観る人」であるが、地域に住む人が誰でも気軽に「健康づくり」や、子どもの「遊びながらスポーツに親しめる」場としてなど、活用の多様化を検討する。



野球場



球技場



サイクルステーション

⑨新時代に対応するインフラ

<課題>

- コロナ禍におけるリモートワークやセルフレクリエーションなどへ対応するインフラが無い。
- 広大な敷地に様々な施設が整備されているが、案内機能が不十分。

<実施主体>

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ハ Wi-fi 環境（フリー）の整備	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					
		県	指	市町	民間	住民
ハ AR（拡張現実）を活用した案内機能の充実	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					

<概要>

■Wi-fi 環境（フリー）の整備

情報受発信の充実やテレワーク対応などに向けた Wi-fi 環境（フリー）の整備を行う。

■AR（拡張現実）を活用した案内機能の充実

公園内の諸施設、周辺の観光やグルメスポットの案内等について、AR技術を利用して充実させ、園内はもとより公園内外の回遊性を高める。



⑩ 宿泊や飲食施設

<課題>

- 既存レストハウスは老朽化が激しく、使用には多額の補修費が必要である（飲食・宿泊施設は国庫補助対象外）。
- 単一施設利用に止めず、施設間の回遊性を高め、滞在時間を延ばすための支援施設がない。

<実施主体>

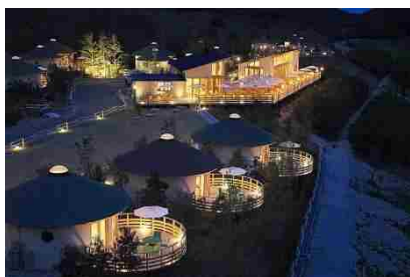
ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

		県	指	市町	民間	住民
ハ	飲食・宿泊機能への民間活力導入					

<概要>

■ 飲食・宿泊機能への民間活力導入

リノベーションによって魅力が増した公園を「家族で一日中、思う存分楽しむ」ため、芝生広場や池、山林などの資源を活かしたグランピングやコテージなどの宿泊機能、キッチンカーなどの飲食機能について、民間のノウハウを活用した導入を図る。



グランピングイメージ



ツリーハウスイメージ



コテージイメージ



オートキャンプイメージ



ソロキャンプイメージ



キッチンカーイメージ

## ⑪トイレ

### <課題>

- 清掃方式が湿式のため、衛生環境の向上が必要。
- 和式トイレが主体のため、馴染みのない子ども達やお年寄り、足腰の不自由な人達が使いづらい。
- 照明設備が旧式の蛍光灯のため、照度が低く薄暗い。

### <実施主体>

**ハ** : ハードに関する対策    **ソ** : ソフトに関する対策

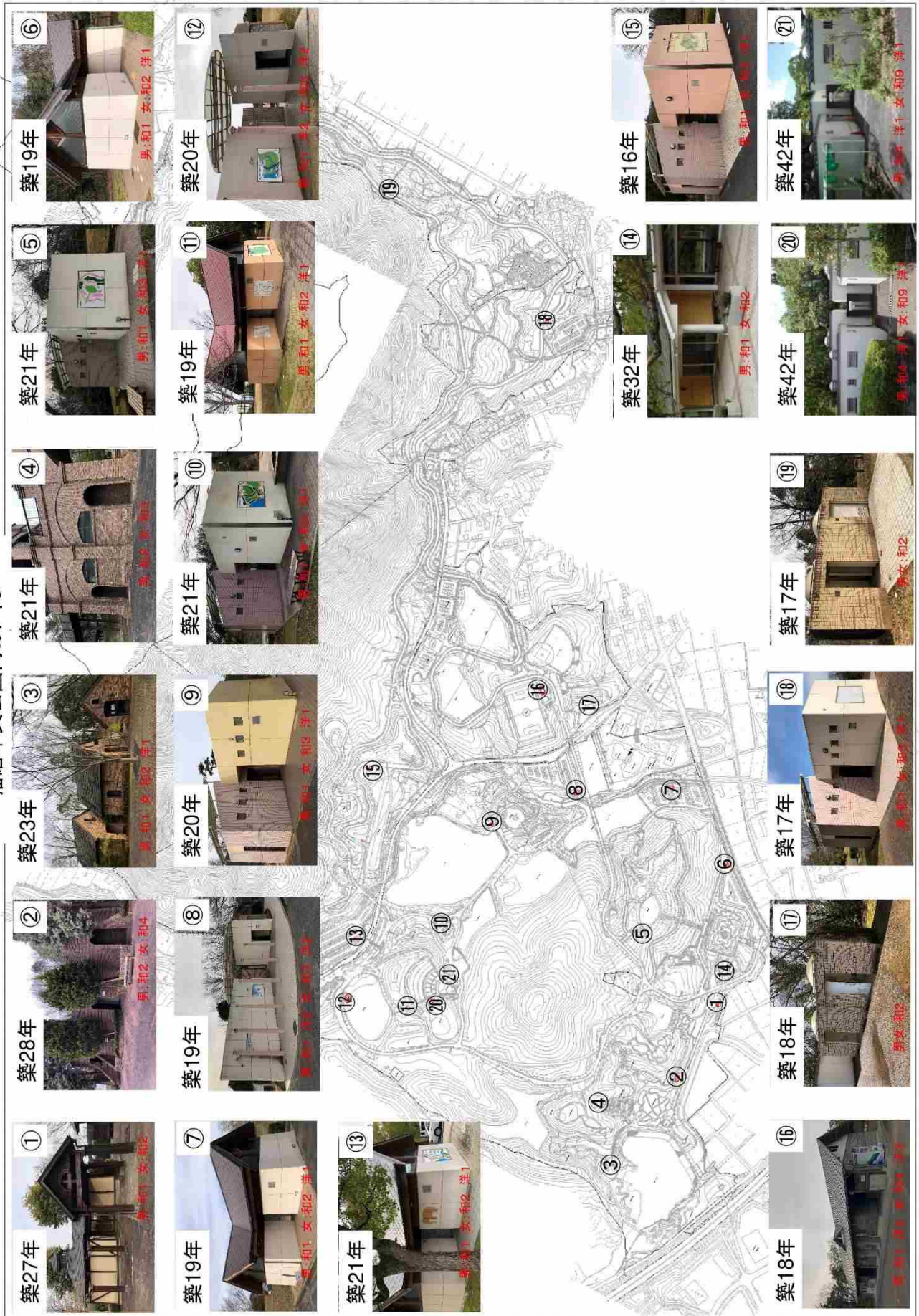
		県	指	市町	民間	住民
<b>ハ</b> トイレの改修	主体となって進める機関					
	協力・連携して進める機関					

### <概要>

#### ■トイレの改修

「明るく、清潔に、安全で誰もが使い易いトイレ」を目指し、洋式化、照明器具 LED 化、清掃方式の乾式化などを行う。

播磨中央公園内のトイレ



⑫さいくるらんどサイクリングコース（約3km）

<課題>

- 園路改修後のサイクリングコースと一体的な運用が求められる。

<実施主体>

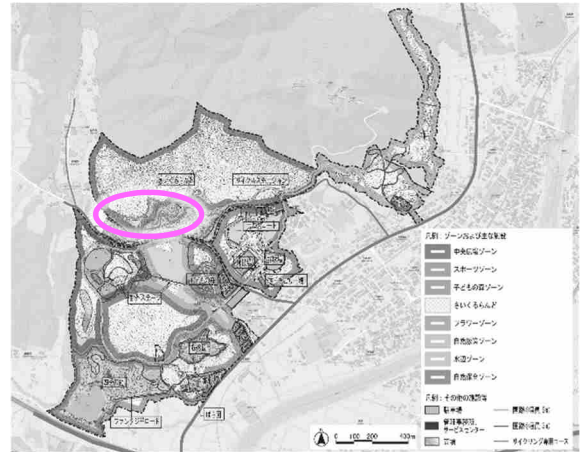
ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

ハ 自然散策ゾーン、サイクリングコースとの ソ 接続と一体運用	主体となって進める機関	県	指	市町	民間	住民
	協力・連携して進める機関					

<概要>

■自然散策ゾーン、サイクリングコースとの接続と一体運用。

歩車分離によって歩行者の安全性を確保する自然散策ゾーンの園路と接続させ、全長約7.2kmのサイクリングコースとして一体的に運用する。





## 4-5 スケジュール

リノベーション計画の実現スケジュールを次のように定める。

なお、短期は5年以内、中期は10年以内、長期は10年超を想定している。

【表 取組内容の実現スケジュール（予定）】

ハ：ハードに関する対策 ソ：ソフトに関する対策

内容	短期	中期	長期
①野外ステージ			
ハ はりちゅうローラースポーツパーク (仮称)の整備	■		
ソ 利用者のレベルに応じたサポートを行う 運営体制の確保	■	■	■
②園路			
ハ 歩く人に優しい園路整備	■		
ソ サイクリングコースの設定	■		
ハ 公園内既存園路の一部区間と接続	■		
③桜の園			
ハ 樹勢回復事業の実施	■		
④ばら園			
ハ チルドレンズ・ガーデンの整備・運営 ソ	■	■	■
ハ サービスセンターの改修	■		
⑤ファンタジーロード			
ハ 明るい並木道づくり	■		
⑥周辺樹林地			
ハ 林相の整備	■	■	■

内容	短期	中期	長期
⑦子ども森			
ハ 遊具の更新	■		
⑧スポーツ施設			
ソ 適正な維持修繕	■	■	■
ソ 施設活用の多様化の検討	■	■	■
⑨新時代に対応するインフラ			
ハ Wi-fi 環境（フリー）の整備	■		
ハ AR（拡張現実）を活用した案内機能の充実	■		
⑩宿泊や飲食施設			
ハ 飲食・宿泊機能への民間活力導入		■	
⑪トイレ			
ハ トイレの改修	■		
⑫さいくるらんどサイクリングコース（約3km）			
ハ 自然散策ゾーン、サイクリングコースとの ソ 接続と一体運用	■		